1 基本情報

 施策名
 14
 魅力創造・発信
 展開方向
 01
 まちの魅力を高め、シビックプライドの醸成を図るため、学ぶ機会を増やすとともに、戦略的に発信します。

主担当局 総合政策局

2 目標指標

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1														
	指標名 귽		目標値		実績値									
	拍 保 石	方向	(R4)		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2∼R4	(R1)	
	A 尼崎市のイメージがよくなったと回答した市民の割合	1	66.0	%	31.8	34.8	40.3	42.6	34.8	52.6	58.9		89.2%	
	B 尼ノ國サイトのページ ビュー数(月平均)	1	14,500	回	_	_	_	_	11,336	11,904	12,881		88.8%	
	日刊5紙への尼崎市に関 する記事掲載件数	1	2,050	件	_	_	_	_	1,702	1,800	1,608		78.4%	
	ウ 学校教育と連携した事業 の実施回数	1	85	回	48	76	84	76	60	55	53		62.4%	
	E 文化財収蔵庫・田能資料 館主催事業の参加者数	1	1,700	人	1,089	1,388	1,640	1,208	1,179	1,155	869		51.1%	

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和元年度実施内容を記載

「政が取り組んでいくこと ■シビックプライドの醸成

【情報発信力の強化】

(目的)まちの魅力および全庁的な情報発信力を強化し、市民や尼崎に関わる人のまちへの愛着と誇りをさらに高める。

(成果)①8月から情報発信支援業務委託を開始し、PRやコミュニケーション分野で高い専門知識や実践経験を持つ事業者から次のとおり全一庁横断的な情報発信に係るアドバイス等の支援を受けている。(目標指標A・C)

・週2回広報アドバイザーが庁内に常駐し、各所属が情報発信に係る相談ができる体制を整えた(延べ相談件数112件)。

・市ホームページのカテゴリの見せ方の提案を受け、犯罪認知件数の減少や自転車のまちづくりに関する取組について、グラフ等を交えて分かりやすく紹介するページを作成し、課題解決の取組を積極的に発信することで、尼崎市に対するイメージと現実のギャップを埋める一助と

・記者発表資料について、より取材したくなる、記事に取り上げたくなる見せ方の提案を受けた。また、案件によっては市政記者以外のメディアへの効果的な情報提供を行った。

・職員一人ひとりに効果的な情報発信の必要性を意識させるための広報マインド研修(課長必須、各課1名必須の計2回)、情報発信のスキルを向上させる研修(デザイン、プレスリリース作成)、不測の事態を想定した危機管理広報研修を実施し、延べ410人の参加があり、積極的で効果的な情報発信につなげた。

②小・中学生を対象としたイベント等をまとめた情報誌「まるっとアマガサキ」について、認知度や必要度を調査した。

(課題)①事業目的とする戦略的な情報発信による本市の知名度向上やイメージアップには時間を要することから、継続的に委託事業者からアドバイスを受け、各広報媒体の改善や全庁的な情報発信にかかる意識改革を図っていく必要がある。

②調査結果から、イベントの掲載数や詳細内容を充実してほしい等、紙媒体では対応できない要望が多く見られた。

【庁内外連携型・市民協働型のシティプロモーション】

(目的)市民自らがまちに関わり、魅力を発信する仕組みを充実させ、さらなるまちへの愛着と誇りにつながるシビックプライドの醸成を図る。 (成果)③「尼ノ國」サイトについて、より確実かつ効果的に多くの人にサイトを見てもらうため、定住・転入を考えている人が検索しそうなキーワードを記事やタイトルに含めた。また、サイトを閲覧した方に他のページも見てもらうために、各記事に関連する情報がわかる内部・外部リンクを設定してサイト内の回遊率を高めるなど、サイトの充実を図った。さらに、サイトに掲載されている人や活動がテレビや新聞等のメディアに取り上げられた際に、各種SNSで紹介して、サイトへの誘導を図った。(目標指標B)

④地域振興センターと連携して「尼ノ國」サイト内に地域の魅力や取組を紹介する記事の掲載を始めた。また、昨年度に引き続き「尼ノ國」インスタグラムを活用してハッシュタグキャンペーンを実施したことなどにより、フォロワー数は昨年度末から269人増加し928人となった。また「#尼ノ國」での投稿数は3,611件増加し7,229件となった。

⑤本市のPR冊子を市内各駅やショッピングモール、宿泊施設、尼崎城等に設置したほか、冊子の内容を市ホームページ上へ分かりやすく掲載したことで、市内外に広く尼崎の魅力を知ってもらうきっかけとした。

|⑥まちづくりの総合指標の1つである「市民参画指数」の考え方を提唱した河井孝仁教授によるシティプロモーション研修を全課必須とし、全 |庁的にシティプロモーションの考え方を持つよう促した。

(課題)③サイトのターゲットである「子育てファミリー世帯」が必要とする尼崎の「利便性」や「暮らしやすさ」の情報をよりわかりやすく、かつ親 しみと共感を持ってもらえるよう工夫して記事を発信していく必要がある。

④各地域の魅力や取組を紹介する記事掲載実績が少なかったことから、引き続き身近な地域の魅力や活動を知ることができる情報発信に取り組む必要がある。

⑥市民協働型のシティプロモーションについて、どの部署も自分ごととして取り組むよう、さらに促していく必要がある。

【地域の歴史に親しむ機会の充実】

(目的)市民や子どもたちが尼崎の歴史・文化財に触れる学習機会や場の充実を図ることにより、身近な地域の歴史・文化財に対する関心を 高め、シビックプライドの醸成につなげる。

(成果)⑦文化財収蔵庫では市民向けの歴史講座や夏休みの体験学習事業を実施し、歴史博物館のPRを兼ねた講座・シンポジウムを開催した。また、文化財収蔵庫が休館中のため学芸員やボランティアが小学校に出張して体験学習等を行った。加えて、尼崎城に関する資料集の発行・頒布を行った。(目標指標D・E)

⑧田能資料館では勾玉や弥生土器づくりなど、古代のくらしを体験できる事業を行った。(目標指標D・E)

|(課題)⑦歴史博物館での市民や子供たちへの学習機会の提供のあり方について、歴史博物館での実践を通じてより効果的な内容へと高め |ていく必要がある。また、小学校の教育課程の改正に応じた学習内容の再構築が必要である。

⑧田能資料館では、体験学習事業の充実を図っていく必要がある。

3 主要事業一覧



4 市民意識調査(市民評価)

項目内容

●シビックプライドの醸成

●重要度



●満足度



令和2年度の取組

【情報発信力の強化】

①情報発信支援業務委託を継続するなかで、市が運用する広報媒体の内容充実に向けた改善をしていくほか、メディアへの情報発信強化、相談業務の活用について各所属へ積極的に働きかけを行うなど、総合的な情報発信力の強化に取り組んでいく。また、人が集まる講義やイベントが実施困難になっており、動画配信の需要が高まっていることから、公式YouTubeチャンネルの開設や動画の撮り方や編集方法についての研修を実施していく。

②まるっとアマガサキについて、掲載情報量の増加や、詳細な情報の掲載を可能とするため、紙媒体で発行していたものを市ホームページへ移行する。

【庁内外連携型・市民協働型のシティプロモーション】

③「尼ノ國」サイトについて、引き続き「人」にフォーカスを当てながら、生活に直結した身近な情報やおすすめのスポット等も盛り込んだ発信内容にするなど、閲覧した人が次の行動に移しやすい共感できる内容を取り上げていく。また、引き続き検索エンジンにおいて上位表示させるための対策(SEO対策)として、調査・分析に基づき改修を実施するなど、掲載内容の工夫を行い、サイトの充実に向けて取り組む。

④地域振興センターと連携しながら、各地域で活動している人やその活動について情報発信をしていく。

⑥引き続き、行政と市民がともにまちの魅力や課題などを共有し、発信する大切 さを学ぶ機会として研修を実施する。

【地域の歴史に親しむ機会の充実】

事業を実施する。

⑦文化財収蔵庫では、歴史博物館のPRを兼ねた市民向け講座と近隣市での講座を開催することに加え、中央図書館・尼崎城との連携事業を検討し実施する。学校教育を支援する事業は継続実施し、歴史博物館開館後は、館内での講座や体験学習会を実施すると共に学校団体を積極的に受け入れていく。 ⑧田能資料館では、田能遺跡サポーター倶楽部と協働で古代のくらし体験学習

6 <u>評価結果</u>

・本市のイメージは、治安や環境などの課題 解決に向けた長年の取組や、市制100周年 や尼崎城の再建に関する様々な取組など の効果により、大幅に上昇している。

施策名: 魅力創造・発信

施策番号: 14

・引き続き、さらなるイメージ向上に向けて、 民間事業者の支援を受けながら職員の意 識改革を図るとともに、紙媒体のみならず Web環境を通じた情報発信を戦略的に行う など、まちの魅力の効果的な発信に取り組 んでいく。

・また、まちの魅力を定住・転入の促進につなげていくため、今年度改定し、本市の多様な住宅地の特徴を生かしたブランディングなどを掲げる住宅マスタープランの取組に沿って、尼崎らしい暮らしぶりを「尼ノ國」サイトなどを活用して周知していく。

主要事業の提案につながる項目

1 基本情報

| Table | 14 | 魅力創造・発信 | 展開方向 | 02 | 尼崎城をはじめとしたまちの多様な資源を活用し、市内外の人の交流 | の促進をめざし、観光地域づくりに取り組みます。 | 主担当局 | 経済環境局 |

2 目標指標

	指標名		目標値		実績値										
1日 保 石		方向	(R4)		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2∼R4	(R1)		
Α	市内の観光客入込客数	1	280.0	万人	209.1	211.0	231.2	240.3	228.1	242.5	259.7		92.8%		
В	り、小ナル寺佰汨石剱	1	50.0	万人	32.7	36.5	41.1	41.2	44.0	44.8	43.7		87.4%		
С	市内の観光客入込客数のう ち、尼崎城有料入城者数	1	R1 15.7万人 R2~ 10.5万人	万人	_	_	_	_	_	_	14.6		92.7%		
D	観光指針における重点取 組地域の中心地の地価	1	397	千円 /m²	372	372	375	379	383	392	410		100%		

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和元年度実施内容を記載

「政が取り組んでいくこと ■観光地域づくりと市内外の交流促進

|【観光重点取組地域のまちづくり】 |(目的)|太市のイメージを一新する歴史・文化を取り込んだ観光施等を中心市街地である阪神屋崎駅周辺

(目的)本市のイメージを一新する歴史・文化を取り込んだ観光施策を中心市街地である阪神尼崎駅周辺地区で展開するとともに、地域資源を活かした観光振興を進め、交流人口の増加や経済活性化、シビックプライドの醸成につなげる。

(成果)①(一社)あまがさき観光局や尼崎城址公園指定管理者が中心となり、民間事業者とも協働しながらイベント等を開催し、尼崎城来城者の獲得、地域の交流人口増加に向けて取組を実施した。新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年3月1日から臨時休館した尼崎城の有料入城者数は14.6万人と目標値を下回ったが、市内の観光客入込客数は259.7万人と前年度より増加した。(目標指標A・B・C・D)の地域、は30年以上は、1年3月1日は、1年3月1日は、1年3月1日に

②地域一体での観光地域づくりに向け、(一社)あまがさき観光局が中心となった観光プラットフォームを設置し、地域の観光関係者と取組方向や目的、各種データ等を共有しながら、観光に係る提案など意見交換を行った。(令和元年度2回開催)(目標指標A・B・C・D)

③全国城郭管理者協議会の研修会を本市で開催し、全国31城の城郭管理者と情報共有を図った。また、3都市4城連携の取組として、本市で「尼崎城ゆかりの城シンポジウム」を開催する等、他都市との連携の強化を図った。(目標指標C)

④尼崎城のPRとシビックプライドの醸成を目的に、市内小学生を尼崎城へ無料招待した結果、2,319人の入城があった。(目標指標C) ⑤尼崎城への新たな来城者を獲得するため、指定管理者による尼崎城公式サイトや公式SNS(フォロワー数:ツイッター493人、インスタグラ

⑤尼崎城への新たな米城者を獲得するため、指定管理者による尼崎城公式サイトや公式SNS(フォロワー数:ツイッター493人、インスタクラ ム254人)を活用した情報発信のほか、「踊るあまがさき」(参加者1,700人)や「震えるあまがさき」(200人)等、話題性のあるイベントを実施す ることでPRを図った。(目標指標A・B・C)

⑥ツーリズムEXPOジャパン(4日間来場者数約15万人)やお城EXPO(2日間来場者数約1.8万人)への出展、韓国での商談会や台湾旅行博への参加等国内外での観光プロモーションを実施し、今後の来訪者やインバウンドの獲得に向けた布石とした。(目標指標A・B・C) ⑦尼崎城をはじめとする重点取組地域内の地域資源への円滑な案内及び誘導を目的とした「観光誘導サイン整備基本計画」に基づき、まず

は阪神尼崎駅、寺町、尼崎城に総合案内サイン(2基)、エリアサイン(4基)、誘導サイン(4基)を設置した。(目標指標A・B・C・D) ⑧尼崎城天守の内部展示の更新や大規模修繕等に必要な財源の確保と、尼崎城への愛着、シビックプライドの醸成を目的とする「みんなが

(の)に崎城大寺の内部展示の更新や人院保修福寺に必要な財源の確保と、に崎城への要看、シェックフライドの醸成を目的とする「みんなが 尼崎城主寄附制度」を新たに創設した。(令和元年度末時点41件188万円)(目標指標C)

③城内地区への来訪者を受け入れるため、令和2年10月に供用開始予定の城内地区駐車場の設置に向けた調整を行った(尼崎市立城内地区自動車駐車場の設置及び管理に関する条例を制定)。(目標指標A·B·C)

⑩開明庁舎の短期的な活用として、(公財)尼崎地域産業活性化機構が尼崎創業支援オフィス「アビーズ」や創業塾等卒業者のさらなるチャレンジの場として、事業者によるカフェの運営が開始できるよう同庁舎1階の一部を整備した。(目標指標A・B・C)

|①尼崎城址公園内の桜園地整備のため、用地交渉を行い、一部の土地の買収がまとまった。(目標指標C)

(課題)①②新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、将来の観光需要回復に向けた方向性や取組を検討する必要がある。

①②令和2年10月にオープンする尼崎市立歴史博物館や寄贈を受けた尼子騒兵衛氏の資料展示など、関係部局が地域の観光関係者と密に連携し、重点取組地域の周遊につながる一体的な取組を行う必要がある。

③~⑥継続的に来訪者を獲得していくため、尼崎城を中心とした地域資源の魅力を積極的かつ効果的にPRする必要がある。

⑧尼崎城天守の魅力向上や維持管理に寄与する寄附金の継続的な運用が図れるよう魅力的な基金活用や募集方法の検討が必要である。⑨城内地区駐車場整備後の運用方法や施行規則等を関係部局と調整のうえ、定める必要がある。

| ⑩開明庁舎の空き床について、重点取組地域の拠点となる賑わいを創出するためのさらなる活用方法を検討していく必要がある。

|⑪尼崎城址公園の用地交渉については、引き続き整備完了に向けて交渉を継続していく必要がある。

【データに基づく観光プロモーション】

(目的)観光面での尼崎に対する評価や魅力の有無を検証するとともに、今後の施策展開にあたっての方向性やターゲットを定める。 (成果)⑫尼崎城をはじめとした重点取組地域内における来訪者の動向等を把握するため、地域内14か所に設置したWi-Fiパケットセンサー解析システムを活用した流動調査や、街頭調査を通して来訪者の移動状況や各施設での滞在時間、また通常時とイベント実施時の人の流れの違いを分析し、地域の人の流れを把握(可視化)することができた。(目標指標A・B・C)

(課題)①②⑫可視化されたデータから、人の周遊を促すための施策を検討・実施し、その結果や効果を地域で共有するとともに、PDCAを回していくことが必要である。

【姉妹都市・友好都市との交流】

(目的)姉妹都市(アウクスブルク市)・友好都市(鞍山市)との友好交流を深め、本市における国際交流の発展に寄与することを目指す。(成果)③「姉妹都市提携記念60周年記念事業」では、姉妹都市提携60周年記念式典に、尼崎市代表団を派遣するとともに、(一財)山岡記念財団の支援を受けて高校生吹奏楽部30人が現地高校生とともに演奏会を実施したほか、市民団などが記念式典などに参加し交流を深めた。友好都市鞍山市とは、尼崎市青少年使節団を鞍山市へ派遣し、卓球をテーマに交流したほか、両市青少年による芸術交流展を実施した。また、姉妹・友好都市交流活動を行った団員が「みんなのサマーセミナー」で成果を発表し、市民へ還元する機会を提供できた。(課題)③姉妹都市・友好都市との交流については、使節団の派遣・受入以外の交流方法や交流成果の発信手法などを検討し、交流をさらに広げていく必要がある。

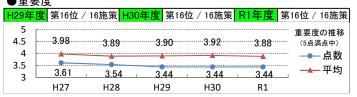
3 主要事業一覧

令和2年度 主要事業名1 尼崎城址公園整備事業2 城内まちづくり整備事業(駐車場整備・管理運営事業)3 尼崎城魅力向上事業4 観光地域づくり推進事業(にぎわいづくり事業)方和元年度(平成31年度) 主要事業名1 あまがさき観光局補助金(観光地域づくりの推進)2 姉妹・友好都市交流関係事業(姉妹都市提携60周年記念事業)3 45平成30年度 主要事業名1 尼崎版観光地域づくり推進事業2 尼崎版DMO設立事業3 45

4 市民意識調査(市民評価)

<mark>項目内容</mark>
●観光地域づくりと市内外の交流促進

_ _ _ .



●満足度



令和2年度の取組

【観光重点取組地域のまちづくり】

①②(一社)あまがさき観光局にて登用する民間人材を中心に観光マネジメント機能を発揮し、地域の観光関係者との連携を強化していくとともに、新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、観光客数の回復を図る取組に注力する。 ①⑩開明庁舎の短期的な活用方法として、空き床を臨時的にイベント会場等で活用するなど、周遊の拠点となるよう賑わいを創出していく。

①②関係部局との連絡調整の場を設置するなど連携を密にし、10月に新しくオープンする歴史博物館、寄贈を受けた尼子騒兵衛氏の資料展示など、地域一体となって来訪者を獲得し周辺を促進していく取組を強化する。

①②⑥昨年度導入した多言語情報配信サービスを活用し、各種印刷物等と連動させ、外国人観光客の受入基盤を整備していく。

① 8 尼崎城魅力向上のため、基金を活用した展示の充実を図る。

⑦観光誘導サイン整備基本計画に基づき、連携取組により周遊を促す箇所を優先しサインを設置していく。

の域内地区駐車場を整備し、受付や徴収等の運用方法、施行規則を制定する。 ①買収が完了した公園北東部について、イベント等に応じて活用できるスペース 及び桜園地を整備するほか、公園北側、東側の道路整備等を行う。また、未取 得の計画地について、引き続き用地交渉を行う。

【データに基づく観光プロモーション】

①(一社)あまがさき観光局が登用する外部人材を中心に、観光のエリア戦略で 定めるターゲットの獲得に向け、必要とするデータやその収集方法等を検討する とともに、指定管理者とも連携・役割分担を図り、尼崎城への来城者獲得及び地 域への周遊促進につながる有効かつ効果的な事業を展開していく。

【姉妹都市・友好都市との交流】

③アウクスブルク市への尼崎市青年使節団の派遣については、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みて令和2年度は見送り、来年度実施する。また、鞍山市青少年使節団の受入れについても、今後両市で調整を図りながら見送る予定としている。

③新型コロナウイルス感染症の状況について姉妹・友好都市と情報交換し、お 互いの状況を知り励まし合うことによってさらに交流を深める。また、オンライン を使った姉妹都市交流も検討していく。

6 <u>評価結果</u>

・尼崎城については、新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨時休館したこともあり、目標の有料入城者数には届かなかったものの、様々な観光関連イベントを実施したことにより、多くの人の来城につながった。

施策名: 魅力創造・発信

施策番号: 14

・観光地域づくりの推進に向けては、新たに設置した観光振興課を事務局として、庁内関係部局や関係団体による観光連携会議を立ち上げるとともに、(一社)あまがさき観光局において、民間人材の事業部長を採用するなど体制を強化した。

・今後は、新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、本市や伊丹市など近隣5市による「日本酒」をテーマとしたストーリーの日本遺産への認定や歴史博物館の開館を機に、国・県の景気回復キャンペーンとも連携しながら、落ち込んだ観光客入込客数の回復や地域の周遊促進を図る取組を実施する。

・また、観光関連イベントについては、成果の検証に必要なデータを整理・収集し、事業目的ごとに費用対効果を統一的に検証することで、今後の尼崎城の来城促進や城内地区、寺町、中央・三和商店街といった「重点取組地域」の賑わいづくりへつなげていく必要がある。

主要事業の提案につながる項目

【観光重点取組地域のまちづくり】

①②③⑤新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、外国人観光客を含めた将来の観光需要回復に向け、国や県をはじめ、他都市、大阪観光局等の関係機関と連携した観光情報の発信や観光基盤の整備等を検討する。

1 基本情報

施策名 14 魅力創造・発信 展開方向 03 まちの魅力と活力を高めるため、地域の文化資源の活用を促進するとともに、 新たな文化芸術活動の担い手を育成します。

主担当局 総合政策局

2 目標指標

	指標名		目標値		実績値										
	拍 保 石		(R4)		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2∼R4	(R1)		
Α	尼崎市総合文化センター及び本市が実施 した文化芸術事業への参加者数	1	349,000	人	318,952	307,903	314,915	302,975	304,420	287,010	292,057		83.7%		
В	尼崎市総合文化センター 稼働率	1	55.0	%	41.0	40.0	46.0	46.0	45.0	42.5	38.4		69.8%		
С	若者支援を対象にした文化芸術 事業への参加者数	1	4,950	人	425	362	2,226	3,515	3,583	4,369	4,896		98.9%		
D	尼崎観光特使来庁回数 (出席数)	1	18,000	回	1,842	3,467	5,611	8,282	9,675	10,732	14,311		79.5%		
E										_					

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)(令和元年度実施内容を記載

<mark>行政が取り組んでいくこと</mark>■新たな魅力づくりによる文化振興 【文化活動の場づくり】

(目的)(公財)尼崎市文化振興財団を文化振興の中核と位置付け、市民の文化活動を推進することで、本市文化の向上発展を図り、まちの 魅力と活力を高める。

(成果)①文化振興を進めていく仕組みづくりとして、文化ビジョンに基づく事業評価や、新たに文化振興基金を活用した事業の実施に取り組 は、だ

②(公財)尼崎市文化振興財団と連携し、同財団及び尼崎市総合文化センターの今後のあり方について検討を進める中で、総合文化センターの耐震化等の施設改修に向けた検討を行った。また総合文化センターにおいて開催した音楽・バレエ・演劇、古典芸能などの事業や、市展や文芸祭などの文化振興事業、本市の文化芸術事業を通じて市民の文化芸術体験や活動を支えるとともに、一般公開された尼崎城において、文化庁の文化芸術振興補助金を活用して尼崎城薪能を実施し、延べ1,200人が来場した。(目標指標A・B・C)

③「第7回近松賞」受賞作品について、劇団「青年団」に制作を依頼し、上演する予定が、新型コロナウイルス感染予防のため延期となった。 また白髪一雄発信プロジェクトとして、青森県立美術館で本市が共催して特集展示を行い、22,896人が来場、東京オペラシティアートギャラリーで開催の展覧会に特別協力として参加し、8,246人が来場した。(目標指標A)

④市民芸術賞1名と文化功労賞2名を顕彰した他、若手芸術家を応援する第2回目の文化未来奨励賞を1名選定した。また、第1回目の文化 未来奨励賞の受賞者の発表を行い、来場者数が9.906人であった。

(課題)①本市の文化振興を進めていくため、平成30年度に創設した文化振興基金の周知に努める必要がある。

②総合文化センターの耐震化等を進めていくため、施設整備の内容や手法、財源確保、効果的な運営などについて、引き続き財団と連携を図りながら、検討・調整を行い具体化していく必要がある。また総合文化センターの改修中及び改修後の文化事業の展開について検討する必要がある。

③海外でも評価の高い白髪氏の作品や本市に所縁の深い人物として、継続して全国にプロモーションしていく必要がある。

②市民に優秀な作品を目にする機会を提供するため、文化未来奨励賞の受賞者の発表の場や方法を検討する必要がある。また、市民をは じめ、広くPRしていく必要がある。

【若者の夢の応援】

(目的)若年層をはじめとした市民に芸術や地域文化を発信し、その魅力に触れてもらう機会の充実を図ることで、次代の担い手を育成す ス

(成果)⑤「ティーンズサポートチケットPR事業」では、公演数と共に内容もミュージカルなど若者が興味を持つものが増え、応募者数が107人に増加した。(目標指標C)

⑥市・山岡記念財団・教育委員会の3者主催、尼崎市文化振興財団共催で、音楽家の大植英次氏が指導を行う公開レッスン&コンサートを実施した。参加学生や来場者に対して、音楽のすばらしさを分かち合う機会を提供できた。(目標指標C)

⑦「あまらぶアートラボ運営事業」では、展覧会を5回、関連イベントを11回、トークイベントを7回実施した。夏休みのグループ展では、来場者が写真を撮りたくなるような工夫を凝らし、SNS等で情報発信しやすい展示内容となった。また、来場者が作品に触れながら施設を周遊して楽しむ展覧会を開催した。その他、姉妹都市であるドイツのアウクスブルク市に若手アーティストを派遣し、世界へ飛躍するチャンスを提供できた。(目標指標C)

⑧「尼崎落研選手権」は11大学の落語研究会が腕を競いあい、若者のチャレンジを応援できた。地元ケーブルテレビで番組化した他、参加大学が小学校で授業を行い、子ども達が伝統芸能に触れる機会を提供した。また、キューズモールで学生寄席を企画していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。(目標指標C)

⑨市内在住の漫画家・尼子騒兵衛氏により描かれた原画や外国語に翻訳された漫画を中央図書館100周年記念として展示し、8,247人が訪れた。また「忍たま乱太郎」ゆかりの地名をめぐるファンへのおもてなしとして行ってきた「影の尼崎観光特使」は登録者数が8,000人となり新規登録を終了したが、「光の尼崎観光特使」の登録者数は1,299人となった。加えて、ミュージカル「忍たま乱太郎」尼崎公演やシールラリーの実施により、市外から多くの方が尼崎を訪れた。(目標指標C・D)

(課題)⑦出張ワークショップは人気の企画となり、申込者が殺到したが、展覧会等アートラボの集客につながっていないため、興味を持ってもらう工夫をしていく必要がある。

⑧学生寄席が中止になったため、自宅でも楽しめるメニューについて検討する必要がある。

③尼子事務所が所有する資料の保存・活用についての協定を結び、集客を見据えたイベントや情報を発信していく必要がある。また「影の尼崎観光特使」の新規登録受付が終了したこともあり、今後来庁回数の増加率は減少していくことが見込まれる。引き続き尼崎を訪れる方に楽しんでいただくための運用方法の検討が必要である。

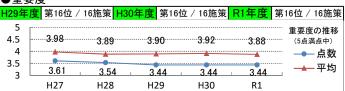
3 主要事業一覧

令和2年度 主要事業名 1 尼子騒兵衛作品等資料収集・調査・活用事業 2 3 4 5 中和元年度(平成31年度) 主要事業名 1 郷土画家「白髪一雄」発信プロジェクト事業 2 3 4 5 平成30年度 主要事業名 1 若者の夢創造・発信事業 2 3 4 5

4 市民意識調査(市民評価)

項目内容 ●新たな魅力づくりによる文化振興

●重要重



●満足度



令和2年度の取組

【文化活動の場づくり】

①文化振興を着実に推進していくため、文化振興基金のPRに取り組む。 ②総合文化センター耐震化等の着手に向け、整備内容や手法について調整するとともに、指定管理者制度導入や、今後の文化事業の展開等について財団と協議・検討を進める。

③白髪ー雄発信プロジェクトとして、高松市美術館での特集展示を行う。 ④文化の担い手である子供たちを対象としたプログラムを検討し、ワークショップ や公開制作等を行うよう調整する。

【若者の夢の応援】

⑦新型コロナウイルス感染症の状況に注視しながら、引き続き地域での出張ワークショップやオンライン展示A-Lab@Homeも実施しながら、アートに身近に触れていただく機会を提供し、展覧会にも興味を持って来てもらえるようなPRIこ努める。

⑧市内小学校の他に、オンラインで寄席を発信するなど自宅でも楽しめる寄席も発信していく。またショッピングセンターなど学生寄席を披露する機会を設ける。 ⑨全国で初めてとなる尼子騒兵衛氏に焦点を当てた展覧会の開催については、 新型コロナウイルス感染症の影響により来年度に延期し、今年度はより効果的な展覧会となるよう準備を進める。また光と影の尼崎観光特使のほか、忍たま乱太郎グッズ展やトークイベントなど尼崎を訪れる方に楽しんでいただくメニューを検討する。

6 <u>評価結果</u>

・文化振興については、コロナ禍の取組としてオンライン展示A-Lab@Homeを実施した経験を活かし、Web環境を通じた情報発信を、本市の文化・芸術・芸能の新たなPR手法として位置づけ、今後の文化事業の実施における活用を検討するとともに、観光施策においても同様の情報発信手法について検討していく。

施策名: 魅力創造・発信

施策番号: 14

・また、新型コロナウイルス感染症の状況を 見定めつつ、尼子騒兵衛展を開催するな ど、全国へ尼崎の魅力・文化資源を発信し、 市内外の交流や観光地域づくりを促進する 取組を進めていく。

主要事業の提案につながる項目

1 基本情報

施策名 14 魅力創造・発信 展開方向 04 まちの歴史をともに学びあえるよう、文化財や歴史資料等の保存や学 習機会の充実に取り組みます。

2	目標指標													
	指標名		目標値 ·向 (R4)		実績値									
	11 1	方向			H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2∼R4	(R1)	
	A 歴史や文化財等に関するボラン ティア活動参加延べ人数	1	4,792	人	2,746	3,204	3,629	3,699	3,187	2,566	1,791		37.4%	
	B 文化財収蔵庫での展示会の観覧者数	1	20,000	人	1,228	10,579	11,397	13,081	12,721	8,309	3,119		15.6%	
	C 田能資料館での展示会の 観覧者数	1	28,000	人	12,600	11,685	29,625	26,003	28,782	23,294	25,261		90.2%	
	D 地域研究史料館相談利用(レファレンス)人数	1	2,345	人	1,877	2,201	2,442	2,495	2,345	2,330	1,907		81.3%	
	E 地域研究史料館講座・自主グル 一プ参加人数	1	1,212	人	870	848	820	977	1,167	1,076	1,014		83.7%	

5 担当局評価

これまでの取組の成果と課題(目標に向けての進捗と指標への貢献度)令和元年度実施内容を記載

す政が取り組んでいくこと ■歴史遺産等の保存と活用

【魅力ある展示事業の展開】

(目的)尼崎の歴史資料や文化財を積極的に展示・公開することで、市民や他都市からの来訪者の尼崎の歴史・文化財に対する関心を高め、シビックプライドの醸成や観光地域づくりに貢献する。

(成果)①文化財収蔵庫は通年で休館中のため、総合文化センターや尼信会館を会場として所蔵資料を活用した展示会を開催し、田能資料館では特別展1回と企画展2回を開催した。また、令和2年度の歴史博物館開館記念展の準備のため、展示資料の借用予定先で調査を行った。(日標均標8-C)

(課題)①歴史博物館の常設展示については、リピーターの獲得に向けて魅力ある展示とする工夫が必要であり、特別展・企画展については、これを目当として市内外から多数の来訪者が訪れるような工夫が必要である。田能資料館については歴史博物館の分館としての位置づけから、歴史博物館と連携した活動が課題である。

【市民と共に歩む博物館の構築】

(目的)歴史博物館・田能資料館の活動に参画するボランティアを積極的に養成し、市民グル―プとの協働も図りながら、市民と共に歩む博物 館を創出していく。

(成果)②文化財収蔵庫は休館中であるが、仮事務所で行うことができる活動や、学校等に出向いて行う活動には市民ボランティアの積極的な参画を得た。地域研究史料館では、史料整理・活用を市民ボランティアとの協働で行った。田能資料館では、田能遺跡サポーター倶楽部との共催で企画展を開催するなどの活動を行った。(目標指標A)

(課題)②歴史博物館開館後のボランティア養成や市民協働のあり方及び活性化、並びに持続可能な形態について検討する必要がある。また、ボランティア活動や市民協働の成果を広く発信していく必要がある。

【歴史遺産の保存と活用】

(目的)文化財や歴史資料等の収集・調査・整理を進め、地域資産として有効活用できるように保存・公開することにより、地域の歴史を学ぶ環境づくりを進める。また、歴史遺産を保存し活かす活動に取り組む市民グループ等との連携・協力を進め、地域の歴史遺産の保存・活用を図る。

(成果)③市内の指定・登録文化財件数は計116件(市指定が3件増)、文化財収蔵庫が所蔵する歴史博物館資料は27,199点(32点増)、地域研究史料館が所蔵する史料は329,713点(3,513点増)となった。史料のデジタル・アーカイブ化の一環として、新市史『たどる調べる尼崎の歴史』をWeb上で公開する準備に取り組んだ。(目標指標A・D・E)

④富松城跡を活かすまちづくり委員会との共催によるウォークイベントを実施し、富松城跡の歴史遺産としての情報発信に努めた。

(課題)③歴史的公文書等の保存・公開・活用について、全庁的な公文書管理の見直しが必要である。

④富松城跡の歴史遺産としての価値の発信・保存活用のあり方について、市民グループや学校等と連携して検討していく必要がある。

【城内地区の魅力向上と歴史文化を活かす取組】

(目的)歴史博物館と尼崎城、中央図書館の連携による都市魅力の向上と交流人口の増加に向けた歴史文化遺産を活かす取組を推進す

。。 (成果)⑤歴史博物館の整備工事を進め、令和2年3月に整備工事が竣工した。

(課題)⑤城内地区の魅力向上と歴史文化を活かすまちづくりを進めていくために歴史博物館として何ができるのか、尼崎城や中央図書館、市の観光部門やあまがさき観光局、城内地区の学校、民間事業者、地域住民とどのように連携していくのかを検討する必要がある。

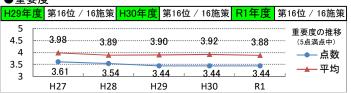
3 主要事業一覧



4 市民意識調査(市民評価)

項目内容
●歴史遺産等の保存と活用

●重重



●満足度



令和2年度の取組

【魅力ある展示事業の展開】

①文化財収蔵庫の建物を改修し、令和2年10月10日に歴史博物館として開館する。歴史博物館の魅力ある常設展示を構築するため、専門業者への委託により展示パネル等を製作する。また、開館に先立ちPRを兼ねた企画展を総合文化センターで開催するとともに、開館記念事業として歴代尼崎藩主の業績を紹介する特別展を開催する。田能資料館では開館50周年を記念した特別展を開催する。

【市民と共に歩む博物館の構築】

②文化財収蔵庫・地域研究史料館において実施してきたボランティア活動を、歴史博物館の活動でも継続すると共に、ボランティア参加者の意見も聞きながら新たなボランティア活動についての検討を開始する。田能資料館では、田能遺跡サポーター倶楽部の活動の範囲を拡充し実施する。

【歴史遺産の保存と活用】

③史料の保管スペースの確保や、未整理重要文書群の活用・公開、デジタル・アーカイブ化などについて、公文書管理のあり方も含め引き続き検討していく。
④富松城跡について、富松城跡を活かすまちづくり委員会との共催によるウォークイベントを引き続き開催するとともに、地域の学校における学習素材として富松城跡の活用についての検討を行う。

【城内地区の魅力向上と歴史文化を活かす取組】

⑤歴史博物館の前庭・公開空地の整備工事を行い、歴史博物館と中央図書館・ 尼崎城との間の遊歩道を整備する。また、歴史博物館の10月からの開館に合わせ、中央図書館・尼崎城との連携事業を検討し実施する。

6 <u>評価結果</u>

・歴史博物館においては、これまで収集してきた多くの歴史的古文書等を広く市民に公開し、本市の歴史を学べるよう、魅力ある常設展示や企画展を実施する。

施策名: 魅力創造・発信

施策番号: 14

・近現代史については観るだけでなく、自ら考えてもらえるようワークショップの実施や理解を促す展示にするなど工夫を施す。また、歴史博物館の展示をきっかけに市内の歴史・文化の拠点施設を周遊し、継続して学べる機会を提供していく。

・尼崎地域史事典(アペディア)などのWebコンテンツについても、多くの人に利用してもらえるようリンクによる誘導や周知方法を工夫し、効果的な学びにつなげる。

主要事業の提案につながる項目

【城内地区の魅力向上と歴史文化を活かす取組】

⑤小学校において、尼崎の歴史や文化財を学ぶ機会の提供に取り組む。